

ピアノ学習に必要な諸能力に関する研究 I ー譜読み力に着目してー

野口美乃里, 中島加奈

(西九州大学短期大学部 幼児保育学科)

(平成 27 年 11 月 30 日受理)

A Study of the Ability Necessary to Piano Learning - About the Score Reading -

Minori NOGUCHI, Kana NAKASHIMA

(*Department of Early Childhood Education and Care
Nishikyusyu University, Junior College*)

(Accepted November 30, 2015)

Abstract

It is indispensable for the child care to play the piano. However, recently, the number of beginners of playing the piano has increased in our college. Then, we invented approach to improve the ability to play the piano for students.

We inspected by 4 ways; to make for the students to chart of a score reading, to make for the students to write worksheet, to record of the activities of a practice to play the piano by us, to summarize the survey results of opinions of the students.

Key word : piano class ピアノ授業

Training school for child-care worker 保育者養成

score reading 読譜

1. はじめに

保育者養成校でピアノの指導する教員のほとんどは、幼いころから毎週ピアノのレッスンを受け、大学で専門教育をうけ、現在に至っては、ピアノを弾くことが日常動作の一部であるため、ピアノを初めて学ぶときに学生が感じる困難感を想像するのが難しい場合がある。

その困難感を理解するため、ピアノ学習に必要な諸能力について整理し改めて考えてみたい。諸能力とは具体的に次のようなものが挙げられる。①「読譜力（音高）」②「高音部譜表と低音部譜表を同時に読む」③「読譜力（リズム）」④「拍子理解」⑤「5指を個別に動かす」⑥「左右の手を別のリズムで同時に動かす」⑦「鍵盤位置の把握」⑧「楽譜を目で追いながら、運指にも気を配る」等々である。①「読譜力（音高）」とは高音部譜表、低音部譜表のそれぞれが読めることであるが、これをするためにはまずドレミファソラシドの音階の位置関係が理解できていなければならない。五線上で理解する前に、「ソの上はラ、ラの上はド」などの位置関係を感覚的に分かっている必要がある。それがあ程度できていて五線上の音符を読み、また書くことがスムーズになる。②「高音部譜表と低音部譜表を同時に読む」は、大譜表の上下段を同時に読んでいく能力であり、初心者にはこれに慣れるまで、非常な集中を求められる③「読譜力（リズム）」とは、音符の種類とその組み合わせによってできるリズムパターンを理解し手で打つなどができる能力である。④「拍子を理解する」は拍子の分母の変化によって変わる基準となる音符の種類が変わることに対応し、それぞれの拍子の特徴を意識しながら演奏することである。⑤「5指を個別に動かす」は、特に4、5の指（薬指と小指）の動きがぎこちなく、初心者にとっては大変な苦労である。⑥「左右の手を別のリズムで同時に動かす」では、特に「朝のうた」「おべんとうのうた」「おかえりのうた」などに登場するスキップのリズムとその伴奏を同時に弾く時の学生の困難感は、見ているこちらが申し訳ない気持ちになるほどである。⑦「鍵盤位置の把握」これは、学生をよく観察していないと見落としがちである。ある程度学習が進んでいる学生でも、ときどき人差し指で「ドレミファソラ」と鍵盤をドから上り、旋律の始まりの鍵盤位置を確かめることがある。こういった学生は指番号などに偏った譜読みをしている場合がある。⑧「楽譜を目で追いながら、運指にも気を配る」これは⑤の「5指を個別に動かす」にも通じるものである。初心者学生は、指を目で見ながら動かせば正しく動くのだが、楽譜を注視した状態では指が思っている通りには動かない場合があり。それが原因で度々ミスタッチしてしまう。これについても教員が学生をよく観察し、ミスの原因を指摘してやらなくては、何度弾いてもミスを繰

り返し、練習する気持ちが萎えてしまう。

これらの能力一つひとつは、知的には理解できても、前述のように、実際はすぐにできるというものではない。しかし「ピアノを弾く」という行為は、これらさまざまな能力を総動員して行わなくてはならないものである。そして、保育者養成校に入学したピアノ初心者学生は最初の数回のレッスンの中で、少なくともこれら諸能力をフル活用しながら「両手で弾く」ことを求められているために、その矛盾を埋めようと、安易な方法を選択する。そのことで、一時的には学習が進んでいるように感じられるかもしれないが、真の実力とはなり得ず、却って次の壁を高くしてしまう。それにより、ピアノ学習を苦痛に感じ、苦手意識を持ってしまう学生が多い。特に手先の器用さに関して、女子学生には及ばない男子学生にはその傾向が顕著である。

こういった学生の困難感に教員が気づき、ピアノを弾くための諸能力について考え、その一つひとつについて、それに特化した簡単なトレーニングを順序良く与えることで、初心者学生のピアノ学習が変わるのではないだろうか。

本研究では、まず諸能力の第1番目に挙げられる「読譜力（音高）」に特化し、そのトレーニング方法として、毎回の授業開始時5分間で実施する「譜読みタイム」による読譜力向上と「伸長の可視化」による効果について検証し、これらが初心者学生のピアノ習得にもたらす影響や、そのプロセスについて報告する。

2. 研究背景

本学の幼児保育学科入学生には、オリエンテーション時に「音楽経験および基礎的な音楽知識についてアンケート調査」を実施している。平成27年度入学生は、95名中24名がピアノレッスン経験のない初心者であった（この中にはピアノレッスンを1回でも経験したことのある学生は含まれない）。アンケートの中にト音譜表、ヘ音譜表それぞれに音符を羅列したものを1分間でどれだけ読めるかで基本的な「読譜力」を測る項目があり、ここでは95名中、ト音譜表で9個以下が25名（内2名は0個）、ヘ音記号では9個以下が32名（内29名が0個）であった。つまりト音譜表においても読み方を知らない学生もあり、ヘ音譜表に至ってはピアノレッスン経験がある学生の中にも読むことができない者がいる。しかし、この学生たちにも就職活動までの正味1年半で、バイエル100番レベルまでの演奏技術を身につけさせなくてはならないため、これまでのピアノ授業では「1曲でも先に進めること」が優先されてきた。

ピアノ学習の最初の段階では、一つひとつ音符を読むより「耳コピー」「運指を覚える」方が早く曲を合格でき、

近道だと思える。しかし遠回りでもきちんと読譜力を身につけさせ、自ら楽譜を読みながら少しずつでも自力で曲を仕上げる力をつけることこそが、最終的には真の実力と自信を与えることができ、楽しんでピアノに向き合ってくれるのではないだろうか。とはいえ読譜力は、例えば初回の授業で読譜の学習を行ってすぐに力がつく、というものではなく継続しなければ学生の読譜みへの意識も低下してしまう。では限られた授業時間の中で、単調で面白みのない読譜みトレーニングを飽きずに目標を持って取り組ませるにはどうすればよいか。そこで導入したのが「読譜みタイム」と「その結果（伸長）の可視化」である。

3. 「ピアノⅠ」の講義実施概要

1) 「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」の目的の違い

本学科のピアノの講義は「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」の2科目がある。前者は1年次前期に開講し、保育士資格必修科目として位置付けている。ただし、初心者の学生にとっては、半期で単位取得することは難しいため、引き続き後期まで履修できるようなシステムとしている。後者は2年次後期に開講しており、1年次に「ピアノⅠ」を取得できた者のみが受講できる。

この2科目の違いとしては、「ピアノⅠ」では基礎的なテクニックを身につけ、簡易伴奏であっても幼児曲のレパートリーを増やすことを目的とおり、「ピアノⅡ」では、1年次で培った技術や表現を元に、できるだけ原譜による幼児曲レパートリーを増やし、より難易度の高いピアノ曲に挑戦することを求めている。この研究では、「ピアノⅠ」に焦点をあて、詳細を述べていく。

2) 講義形態や1コマの流れについて

ピアノの講義は、49台の電子ピアノが設置されているML教室にて、一斉に行っている。教員数は、クラスの人数に応じて配置しており、教員1名につき学生5～6（現在は4～5）名を担当する。

90分間の流れとしては、主に3つの段階に分かれている。まず冒頭5分では、読譜みタイムを行う。詳細は次の項で述べる。

次に教員の指示に従い、グループごとに個別指導が始まる。その際、ML教室内で教員が学生を巡回してレッスンする場合と、隣接する個別練習室に呼び出して、アップライトピアノを用いて指導する場合がある。これらは隔週で行うように計画しているが、いくつかの利点がある。電子ピアノやヘッドホンに慣れてしまうのを防ぎ、弾き歌いで自分の声をよくきいたり、打鍵をしっかりとさせたり、時には会話を通してコミュニケーションをとったりするための策である。

最後に、レッスンの中で再挑戦となった学生に対して、確認のための指導を行う時間を設けている。また学生たちが学びについて毎回振り返られるように、自由記述式のワークシートも導入している。担当教員が回収して毎回コメントを返しており、双方向のやりとりを心がけている。

3) 全15回の講義計画について

回数	内 容
1	オリエンテーション・担当教員発表
2	通常授業
3	通常授業
4	通常授業
5	通常授業
6	実習で演奏する曲の練習開始
7	実習で演奏する曲の練習開始
8	この時期に、5日間の教育実習
9	通常授業
10	通常授業
11	通常授業
12	ミニ発表会
13	通常授業
14	試験室でのリハーサル
15	試験

上記に、前期のスケジュールを例に挙げている。1回目にオリエンテーションを行い、教員と顔合わせを行う。半ば頃には実習があるため、しばしレッスンは中断するが、実習先から課題曲が出ているため、それぞれのレッスンの中で指導を行っている。

1年次の場合、最終回の実技試験の前に、「ミニ発表会」を実施している。これは人前でも普段の力ができるだけ出せるよう心づもりをするための場、また互いの演奏を聴きあうことで、練習の励みにしたり、本番への意識を高めてもらったりするためである。試験会場でのグランドピアノを使って演奏することで、皆緊張し戸惑いながらも、心新たに練習に向かう姿が見られる。試験日直前には、「リハーサル」と称して、再度試験会場で演奏する機会を設けている。

そして最終日の試験では、1人ずつ学籍番号順に、10人程度の学生と9人の教員の前で、最後のレッスンで合格した曲を演奏する。

4) 課題内容と評価方法

テキストは平成26年4月にカワイ出版から刊行された「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト」（全国大学音楽教育学会編）を使用している。そのうち46曲を抜粋しており、全て終了した学生に、

短期大学部 幼児保育学科

ピアノIスタンプ表

クラス()番号()

氏名()

※音楽・知恵(各)1点

Aグレード 1～10は0.5点 他1点 (計13点)		
1	0.5点	✓
2	0.5点	✓
3	0.5点	✓
4	0.5点	✓
5	0.5点	✓
6	0.5点	✓
7	0.5点	✓
8	0.5点	✓
9	0.5点	✓
10	0.5点	✓
11	知恵の練習	✓
12	きらきら星	✓
13	分音知恵書	✓
14①	川はよんでいる	✓
14②	とんぼのめがね	✓
14③	ごまつね	✓
26	おべんとう	✓
療育のうたから(指)		✓

Bグレード 各1点 (計15点)		
15		✓
16		✓
17		✓
18	歌い出しのアルヒーム	✓
19	演奏	✓
20①	音楽	✓
20②	知恵	✓
21	車のおたから(指)	✓
29		✓
30①	音楽	✓
30②	知恵	✓
31	みずあそび	✓
32	山の音楽家	✓
34		✓
みつばちマーチ (P.181)		✓

Cグレード 各2点 (計22点)		
35①	音楽 1点	✓
35②	知恵 1点	✓
36	チューリップ	✓
37	お正月	✓
39		✓
たなばたのささ (P.19)		✓
ぞうさん (P.196)		✓
40①	音楽 1点	✓
40②	知恵 1点	✓
41	めじかの学校	✓
42	こいのぼり	✓
43	おけいのうた	✓
44		✓

Dグレード 各3点 (計9点)		
45①	音楽 1点	✓
45②	音楽 1点	✓
45③	音楽 1点	✓
46		✓
3れいひなまつり (P.100)		✓

Aグレード終了
ここまでで13点GET

Bグレード終了
ここまでで28点GET

Cグレード終了
ここまでで50点GET

Dグレード終了
ここまでで59点GET

♪あとは試験本番で頑張ろう！

ハバエール 100番 (P. 90)

♪終了書は、以下の處にも取り繕んでみよう

アラベスク (P.92)

ソナチネ (P.94)

その他 ()

テキストと一緒に
いつでも
持っておこうね。

試験での演奏もした上で、単位を授与している。上記の
スタンプ表は、課題が終わるごとに教員が押印するため
に使用する。

表の最初は基礎課題が並んでおり、その後はハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調、短調、のように調別に配置されている。各調の中で音階やカデンツの課題もあり、幼児曲は計19曲となっている。最終的にはバイエル第100番を演奏するのが目標であり、それ以上進んだ学生に対しては適宜、ブルグミュラーやソナチネなどの課題を与えることもある。

上記の課題は大きく4つのグレードに分けており、小さい到達点が見えるようにしている。また各曲には点数をつけており、1曲合格するごとに加算される仕組みを作っている。この背景としては、ピアノなどの表現技能科目は、一度きりの実技試験のみでは測れない部分も多く、学生からも「日頃の頑張りが点数に反映された方が、モチベーションが上がる」という声が聞かれたためである。また教員としても、一夜漬けの演奏ではなく、日頃から目標を持って練習に励んでほしいという希望を持っているため、互いの思いが合致した形だと捉えている。

このようにして、平常点を 59 点分としているので、評価では、貯まった点数がそのまま反映される。59 点満点になった者、つまり課題を全部終了した者に対しては、単位を与えることができるので、試験での演奏も加

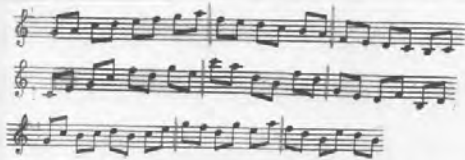
えて評価し、採点している。採点方法は、審査する教員の
の平均値を算出している。

4. 「譜読みタイム」の実施概要

前項で紹介した「譜読みタイム」について、実施概要を説明する。

♪ 譜読みタイム① 幼児保育学科 クラス () 氏名 () 月 日

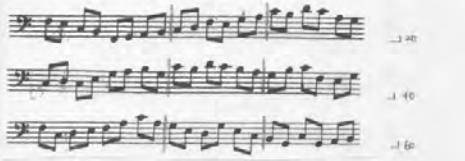
ト音記号



● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒台で解きましたか？ (50秒台・40秒台・30秒台)

ハ音記号



● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒台で解きましたか？ (50秒台・40秒台・30秒台)

图 2-1

♪ 譜読みタイム② 幼児保育学科 クラス()氏名() 月 日

ト音記号

● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒で解きましたか？(50秒台・40秒台・30秒台)

ハ音記号

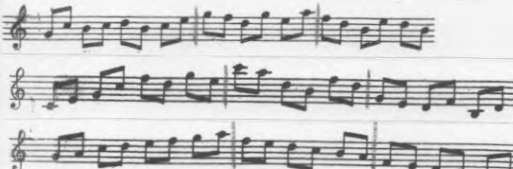
● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒で解きましたか？(50秒台・40秒台・30秒台)

图 2-2

♪ 譜読みタイム③ 幼児保育学科 クラス() 氏名() 月

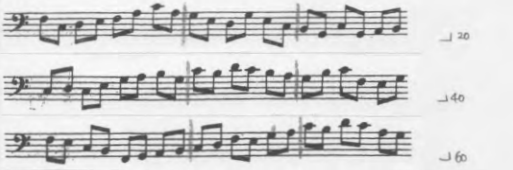
ト音記号



● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒台で解きましたか？(50秒台・40秒台・30秒台)

ハ音記号



● 1分間で読めた数は、何個ですか？ () 個

● 全部読めた人は、何秒台で解きましたか？(50秒台・40秒台・30秒台)

图 2-3

上記の課題はダンデロ「マニュアル・プラティーク」の抜粋であり、①②③は段ごとに順序を入れ替えたものである。

平成 21 年度より実施開始し、年々改正を行ってきた。現在はト音記号、ヘ音記号の 2 問を用意し、それぞれ 60 音ずつ並べている。1 問につき 1 分間という時間制限の中、教員による開始合図のもと学生は一斉に階名を書き込んでいく。その後モニター画面を見ながら、他の受講生と交換した答案を採点する。返却後は、自己の正解数を記録表（「譜読みチャート」と称している）に書き込む。正解率の高い受講生に対しては、解答時間を 50 秒、40 秒…と短くし、同じ課題でも、より短時間で速読する工夫をしている。

尚、講義は全 15 回あるが、試験や発表会などを除いた日のみ実施している。つまり約 10 回分が、記録として残る。それらの結果は最終的に折れ線グラフとなり、自らの伸長度について可視化できるようになっている。

5. 検証方法

本講義において、「譜読みタイム」の活動がピアノ初心者学習において効果をもたらすことを検証するために以下 4 つの取り組みを行っている。その概要について以下詳細を示しているが、本研究において使用したデータの取得時期や方法についても記載している。

1) 譜読みチャート

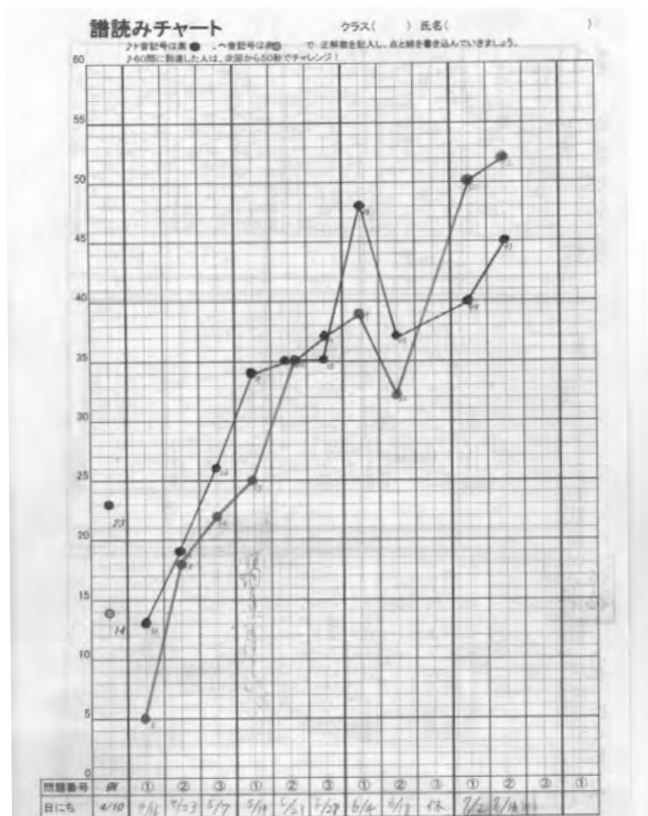


図3

横軸が実施日、縦軸が正解数となっており、ト音記号は黒で、ヘ音記号は赤で、丸と数値を書き込む。学生たちは毎時間それを行い、折れ線グラフとして表していく。結果が一目瞭然なので、学生たちは譜読み能力の伸び率をこれで図る。このチャート用紙は毎時間担当教員が回収し、コメントなどを書き入れている。

尚、今回の研究で使用したデータは、以下から取得している。

- 研究対象時期：平成 27 年 4 月～ 8 月
- 実施場所：西九州大学短期大学部佐賀キャンパス ML 教室、個室および音楽室 2
- 対象：西九州大学短期大学部幼児保育学科 1 年生 95 名、2 年生 85 名

2) ワークシート



図4

前項で述べた譜読みチャートの裏面に掲載しているものであり、担当教員が毎時間の終了後に目を通しコメントを書き込んで次週返却している。学生は毎時の取り組み内容や感じたことなどを自由に書き込みしており、時折譜読みタイムの結果に対する感想なども述べられていることがある。学生たちの譜読みタイムへの意識の高さが伺える部分である。

3) 教員の記録

毎時間の講義が終了した後に、事前に抽出した初心者学生 12 名に関するレッスン記録を作成している。学生の日頃の様子、やりとりの中での発言内容、レッスン時の演奏の癖、新しい曲に取り組む際のプロセスなど多岐にわたって学生を観察し、記録を残している。また譜読みタイムチャートや課題を確認し、学生がどの部分でつまづいているのかを原因を探り、その部分に特化した指導を次回に行うこともある。

ピアノⅠ 初心者学生に関する記録（1年Bクラス） 4名ともピアノは全くの未経験。				
4月	全員が初心者のため、個室に呼び、鍵盤の位置や音の読み方、右の押さし方を指導した。その後3ML教室に移動し、戻った。この日は2番まで合格した。	2番まで合格した。	2番まで合格した。	2番まで合格した。
4月16日	練習したかどうかを尋ねると、全くやっていないとのこと。ピアノを持っていないので、楽器店に行くこと話していた。譜読みタイムについて、順次進行の上行はどうかできるが、下行や1個飛ばしで読むのが苦手のようである。3、4番が合格したが、3つ数えて集めるのは手こずっている。	家でよく練習した様子。3～5番を合格した。読みの読み方がまだ苦手である。拍子が違う曲が続いているので、解き始める前に1小節分カウントしてから始めるとテンポが安定した。特に左手が、弾かない指が鍵盤外に飛び出す傾向がある。	練習したと尋ねると「してない」とのこと。その場での復習と練習になったが、3、4番まで合格できた。「練習すると、もっとスピードにのれる」ということを伝えた。へ音記号の読みがまだうまくできていない様子。	練習したと尋ねると「してない」とのこと。読みのタイムの成績は悪くないが練習不足なので、もっといいない。3～5番を合格した。
4月23日	ドレミという音の並びが楽に入っていないようで、とある音から順に3つ上がったりがつたたりするのに時間がかかる。試みに好きな言葉をさせてみると「イルカ」や自分の名前など、真実が時間がかかり、混乱していた。関係あるのだろうか。これからこのドレミシンドをしようという話をした。5番合格、6番途中。	読みのコツについて少し話をする。テキストの最初のページに元は、大體表は対照的にドが配置されていることなどを伝えた。大體感心した様子であった。指の力が弱いのを気にしていたので、音程から本のピアノで意識的に練習するよう伝えた。練習はよくやっており、6～8番まで合格した。	5番合格、7番まで練習してきた。「今週は少し練習してきた」とのこと。今回の読みは、なぜかへ音記号が0点である。間違えて覚えている様子なので、もう一度鍵盤上と楽譜上とで確認を行った。	読みはだいぶ慣れてきたようで、ほかの学生よりもよい成績である。こちらが急に質問をしても、高いワナなどすら読めている。7番まで合格。
5月7日	必引きのため欠席	タイの曲に取り組んだ。友人と練習したらしく、耳でも覚えただのかよく弾けていた。他のメンバーよりも早く、和音の練習に入った。9～12番まで練習しており、10番まで合格。	6、7番合格、10番まで練習してきており、レッスンを申し出る声も積極的に聞かれた。八分音符が出てきたが、自分で「1と2」とカウントしながら弾くことができていた。テキストの最初ページをもとに、大體表でのドの位置関係について説明を行う。読みのタイムはへ音記号も格段に正解が増えた。	3拍子の段が変わるところが苦手だったようだが、無事クリアした。どの曲でも小節線をまたぐところが苦手なので、その部分を重点的に練習する方法を伝えた。タイの説明まで行う。10番まで練習してきたようだが、8番のみ合格。
5月14日	久しぶりの参加。6、7番に挑戦しているが、あまり練習をしていないので、時間がから。口で読	週に3回は練習をしているとのこと。10、11番の2曲は合格したが、13番にてこずっている	9番を合格する。和音の解読に入ることができた。	和音の解読に入ることができた。最近練習時間も少しとれるようになったよう。10番まで合格

図5

4) 学生対象アンケート

ピアノアンケート ()年()クラス 氏名()

譜読みタイム問題用紙について

1. 最初の授業の頃、あなたの譜読み力はいかがでしたか。
ト音記号 (すらすら読めた・少しゆっくりなら読めた・かなりゆっくりでないとい読めなかった・ほとんど読めなかった)
ヘ音記号 (すらすら読めた・少しゆっくりなら読めた・かなりゆっくりでないとい読めなかった・ほとんど読めなかった)

2. 現在の譜読み力はいかがですか。
ト音記号 (すらすら読めるようになった・時間がかかるが最初より読めるようになった・最初とあまり変わらず読めないままである)
ヘ音記号 (すらすら読めるようになった・時間がかかるが最初より読めるようになった・最初とあまり変わらず読めないままである)

テキストについて

3. 最初の授業の頃、あなたの譜読み力はいかがでしたか。
ト音記号 (すらすら読めた・少しゆっくりなら読めた・かなりゆっくりでないとい読めなかった・ほとんど読めなかった)
ヘ音記号 (すらすら読めた・少しゆっくりなら読めた・かなりゆっくりでないとい読めなかった・ほとんど読めなかった)

4. 現在の譜読み力はいかがですか。
ト音記号 (すらすら読めるようになった・時間がかかるが最初より読めるようになった・最初とあまり変わらず読めないままである)
ヘ音記号 (すらすら読めるようになった・時間がかかるが最初より読めるようになった・最初とあまり変わらず読めないままである)

5. 4において、「読めるようになった」の選択肢を1つでも選んでいる場合は、以下答えてください。
「読めるようになった」のには、譜読みタイムの効果があると思いますか。(そう思う・そう思わない)
※「そう思わない」を選んだ人は、では他に、何が効果的だったと思いますか。()

6. 新しい曲に取り組む時、どうやって曲の雰囲気や流れをつかんでいますか。【複数回答可】
(自分で譜読みしている・先生と一緒に読めない・読めない・友人や先生の演奏を聴かせてもらう)

7. 自分で新しい曲を譜読みすることについて、どう感じていますか。
(とても面倒に感じる・最初は面倒だったが現在は慣れてきた・楽しく譜読みできている)

8. ピアノの授業で譜読みタイムがあることについて、どう感じましたか。【自由記述】

9. ピアノの授業に対して、あなたはどのように感じていますか(好き・どちらかという好き・どちらかという嫌い・嫌い)
※上記でそう答えた理由()

10. ピアノの授業全体について、あなたの考えを聞かせて下さい。【自由記述】

ありがとうございました。尚、この調査は今後の授業をよりよくするためのものであり、成績には影響しません。

図6

全15回の講義が終了した時に実施するもので、最終日の実技試験の待ち時間を利用して回答させている。

譜読みタイムにて使用する問題用紙に関する質問や、講義で使用するテキストに関する質問を交え、譜読みタイムでの活動が実際のピアノ演奏に反映されているかどうかをチェックするものである。また、初めて出会う曲を譜読みする際に手がかりにしている方法や、ピアノ学習に対してどのような感情を持っているのかという問い、そのほか本講義に対する意見・感想などを設問事項として挙げている。

今回の研究においては、以下の要領で実施したデータ結果を使用している。

- 実施時期：平成27年8月3日
- 実施場所：本学ML教室
- 対象：幼児保育学科1年生95名、2年生85名

6. 結果と分析

4での述べた検証方法について、ここでは基本的に、初心者学生の48名を対象に結果を抽出し、分析した。譜読みタイムの効果が伺える部分について以下述べていく。

1) 譜読みチャート

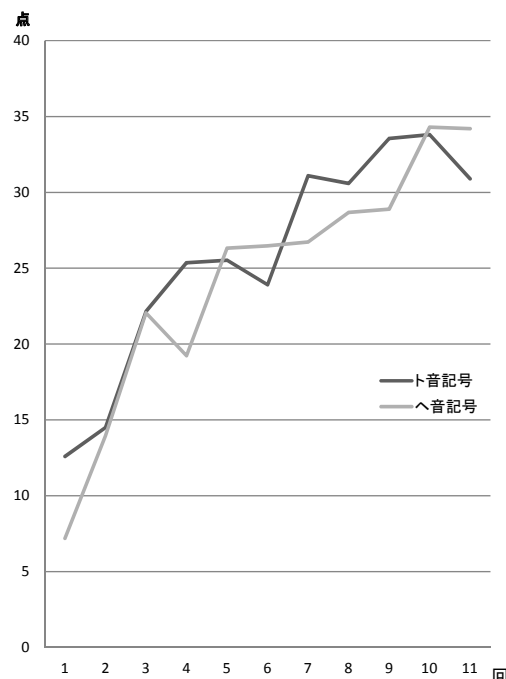


図7「譜読みタイム」の結果（初心者24名の平均値）

学生が毎回書いているチャートのデータを抽出して平均を出した。横軸が実施回数、縦軸が正解数を表しており、ト音記号が細い折れ線、ヘ音記号が太い折れ線で示されている。ここでは48名ではなく、ピアノレッスンを一切受けたことのない24名の結果を表している。た

だしこの 24 名の中にも多少、楽譜が読める学生も含まれていたもので、初回の実施日においてもト音記号は 10 個以上、ヘ音記号も 5 個以上は読めている結果が出ている。どちらの折れ線も上がったりがったりを繰り返しているものの、少しずつ右肩上がりに上昇し、最終的には双方とも 30 個以上を記録している。記録の上がり下がりには様々な要因が考えられ、例えば祝日や学校行事、実習などで講義が長期空いた後の実施日には下がる傾向が見られた。学生の読譜能力について、教員がレッスンしていて感じるのは大体のところ右手で弾くト音記号は得意だが、ヘ音記号は苦手、という傾向だが、この図を見ると最終的にヘ音記号がト音記号の結果を上回っているところが興味深い。初心者学生にとって、ト音記号もヘ音記号も初めて出会い、どちらも同時のタイミングで学び始めた存在であるため、元々の得意・不得意が反映されなかったせいかと考えられる。

2) ワークシートの作成

学生が記述している毎時間終了後の気づきや感想より、特に、読譜に関して述べているものを以下抽出した。ここではレッスンを一切受けた経験のない学生 24 名を、A から X まで割り振っている。なおそれぞれの文中にある数字は、講義の実施回を示している。

学生名	感想・気づき
学生 A	2. 読譜タイムは今日よりできるように次頑張ります。 3. まだ音符がすらすら読めず、練習しないと弾けない 4. ピアノを覚えようと楽譜をきちんと見ていなかったのゆっくりきちんと確認していきたい 5. ピアノを読む時に上と下を同時に見れるように視野を広くしていきたい。
学生 B	読譜に関する記述なし。 “ピアノのアプリをとった” “スマホを使って片方ずつ練習している” の記述あり。
学生 C	読譜に関する記述なし。
学生 D	3. 楽譜の重要なところが読めてなくてミス連発でした。
学生 E	10. 少しずつ楽譜も読めるようになったので嬉しかった。
学生 F	読譜に関する記述はないが、肯定的な感情多数。
学生 G	4. 読譜タイムのプリントの読める数が確実に増えてきているので、これからも伸ばしていけるように頑張りたい。
学生 H	3. しっかり読譜ができ早くマスターしたい。 4. 初めて読譜の時間ト音記号の 20 個読みができました。

学生 I	無回答
学生 J	5. 今日は読譜がこの前よりかは読めたのでよかったです。 9. 手元を見てばかりでいるから読みながら弾けるようにになりたいです。 10. 今まで手元を見すぎていたなと思いました
学生 K	読譜に関する記述なし
学生 L	読譜に関する記述なし
学生 M	読譜に関する記述なし
学生 N	読譜に関する記述なし
学生 O	5. 読譜タイムでの記録もかなりの伸びた!! 7. 読譜タイムもっと早くできるようにになりたいです。
学生 P	読譜に関する記述なし
学生 Q	15. 読譜は前より早くなってきたと思います。 13. 読譜が最初のころに比べて自分でも速くなったと思います。ピアノを弾く時と弾くスピードに、読譜が追いつくようになってきました。
学生 R	3. 読譜が苦手なので、もっと読譜力を鍛えていきたいです。 13. ト音記号もヘ音記号も今までで一番たくさん読むことができたので嬉しかったです。
学生 S	2. まだまだ楽譜が読めないで、自分で調べておくことが大事だと思いました。
学生 T	3. 音符を読みながら弾くことは大切だけど、きちんとリズムを理解しながら弾くことも大切だと思いました。
学生 U	3. 楽譜をきちんと読むことを頑張ろうと思いました。 5. 楽譜を見ながら弾く余裕がなくなってきたなと思いました。 10. 楽譜をみただけでは弾き方がわからない歌もありました。 13. 読譜も最初に比べたら読めるようになっていて嬉しかったです。
学生 V	3. 今回弾いてみて、読譜があいまいになっていることがわかりました。 5. 前回休んでしまったので、読譜の点数やピアノの技術が下がっていたと思います。 7. 読譜タイムは少しできるようになったけれど、ピアノを練習していなかった分、前回注意を受けた所を繰り返してしまった。 13. グラフを見返してみたら、最初の頃よりかなり伸びてたので驚きました。
学生 W	8. 読譜タイムはだいぶすらすら読めるようになってきました。 10. 読譜もだいぶ慣れてきました。
学生 X	読譜に関する記述なし。

筆者が事前に想像していたよりも、読譜に関する記述は少なかったように感じた。筆者が担当している学生は、意識的に授業の中で話題にしているからか、比較的

記述がみられた。ただ、筆者以外の教員が担当している学生でも、譜読みに関する記述はなくても「ピアノが好き」「嬉しい」という肯定的な感情を抱き始めている学生は徐々に見られてきた。

3) 教員の記録

【表1-1】

学生Mのレッスンの様子とワークシートの記述	
初	初回は音符の読み方や鍵盤の位置、指の置き方などを一から説明しレッスンがスタートした。テキストの1番から、弾き始める前に右手の音符を一度声に出して読んでもらい、その後弾いてみる。何とか楽譜を読みながら弾くことができたが、読むことより5指を個別に動かすことに困難さを感じている。
期	2回目以降は譜読みタイムが始まったこともあり、楽譜に集中して弾いているが、手元を全く見ていないので、指が思うように動かずミスしてしまい、何度も繰り返す。それでも回を追うごとに指の動きがスムーズになっていった。ワークシートには、「目標をクリアできて嬉しかった」「指の動きが良くなったと先生に言われたのが嬉しかった」や「少しずつ楽譜が読めるようになってきて成長してきているのが分かって嬉しい」など5回中、3回に「嬉しかった」の言葉が見られた。
中	1曲を仕上げるのにとっても時間がかかるが、きちんと楽譜を読みながら弾くことができている。和音を学び、レベルアップしたように感じたのか、モチベーションが上がる。和音を抑えるのはぎこちなく、また実習のために練習した「おべんとうのうた」で左右のリズムが合わず苦労したが、前向きに練習に励んでいた。
期	実習を控えていたこともあり、ワークシートは意欲的な記述が多く、「実習までにできるだけ弾けるように頑張ります」や「上手くなっている気がした」などがあった。
後	左手が分散和音の課題となり、なかなか両手と一緒に進まない。それでもめげたり、投げ出したりすることなく、授業中は集中してコツコツと練習に励む姿が見られた。
期	電子ピアノ（ML）の録音機能を使用するなど工夫しながら進めた。ここでも、左右が揃って曲らしく弾けるようになるまでにはかなりの時間を要したが、テストが迫ることでモチベーションを維持できたこともあり、ゆっくりではあるが、曲を仕上げることができた。 テスト後のワークシートには「練習の時より、一番上手に弾けて良かった」との記述があった。

【表1-2】

学生Jのレッスンの様子とワークシートの記述	
初	初回は体調不良で欠席だったため、遅れていることを気にしているようだが、練習はあまり進んでいない。授業中は集中して楽譜を一つひとつ読みながら弾いている。ワークシートの記述は「譜読みがこの前よりはできたのでよかったです」「両手で弾くのはやっぱり難しいです」などの記述があった。この段階では、まだピアノを弾くことにいろんな意味で慣れておらず、レッスンの様子から、譜読み、指を動かすこと、両手で弾くこと、一つひとつに困難を感じていることが見て取れた。打鍵も非常に弱々しく、小さな音で弾いていたので、しっかりと指を動かし、指の筋肉にその動きを覚えさせるよう指導していた。
中	譜読みが伸び始めた。ヘ音記号は不安定ではあるがト音記号は大きく伸びが確認できる。少しずつ弾くことに慣れ、ぎこちなかった指の動きがスムーズになった。実習のために練習した「おべんとうのうた」では男子学生が苦労した左右のリズムを器用に弾いた。しかし、これまでは、一つひとつ楽譜を読みながら音に変換していく作業をしていたのに対し「おべんとうのうた」では楽譜を見ずに手元だけを見ながら弾くようになっていた。「おべんとうのうた」は本来であれば難易度的にも、もう少し上達してから取り組むべき課題だが、実習のためにこの時点で弾かなくてはならないため、耳で覚え、目で運指を覚える形で弾いていた。これはある程度は仕方のないことではあるが、これが癖になってしまうと後が苦しくなるので、レッスンではそれを指摘し、楽譜からそこにあるさまざまな情報を得ながら弾いていくよう指導した。そのための練習も一緒に行い、本人も納得して弾いていた。ワークシートの記述では「手元を見てばかりでいるから読みながら弾けるようになりたいです」「慣れてきたら今まで手元を見すぎていたなと思いました」などがあった。
後	試験に向けて実施したミニ発表会できれいに弾けたことが自信となった様子だった。
期	打鍵は相変わらず弱々しいが、一曲が仕上がるまでの時間が短くなってきた。 譜読みと指の動きが連動し始め、目で見た音符やその連なりがそのまま感覚的に指の動きとなって表現されるようになった。最初は体調不良でスタートが遅れたが、この時点で男子学生を追い抜いた。試験に向けてモチベーションも高く、弾けるようになってきたことを実感している。 ワークシートには毎回のよう「今日は○番が（上手に）弾けたのでよかったです」の記述がある。

筆者らが担当した初心者学生の新15回のレッスンを初期・中期・後期の3期に分けて、教員間とのやりとりや学生の進捗、様子などをまとめた。ここでは紙面の都合上、2名の紹介にとどめるが、どの初心者学生も概ね同じ傾向をたどるようである。初期は初めて学ぶ読譜の仕方や、それと指を連動させることに戸惑いを感じるものの、徐々にほぐれていることがわかる。ただしそれに合わせてテキスト難易度も上がってくるので、練習の必要性や自分なりのコツなどを見つけては生かそうとする努力が見られたり、または挫折を味わったりと様々ではあるが、最後の試験ではそれぞれ達成感を感じたことがうかがえる。

4) 学生対象アンケート

ここでは、初心者学生48名の結果を抽出しているが、アンケート実施日にはうち2名が欠席であったため、実際の総数は46名である。以下、アンケートの設問に合わせて結果を掲載する。

読譜みタイムの問題用紙について

- ① 最初の授業の頃、あなたの読譜み力はいかがでしたか。
- ② 現在の読譜み力はいかがですか。

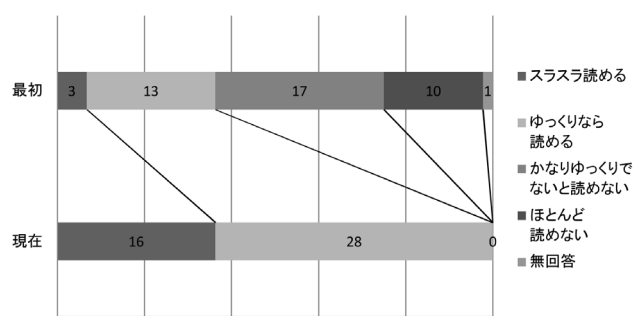


図8 読譜み力の変化（問題用紙ト音記号）

ト音記号とヘ音記号に分けてグラフ作成している。最初の実施日では「スラスラ読める」「ゆっくりなら読める」という項目を選んだ学生はト音記号で16名、ヘ音記号で12名程度にとどまり、「かなりゆっくりでないと読めない」「ほとんど読めない」という項目を選んだ学生はト音記号27名、ヘ音記号は31名と上回っていた。しかし講義全15回が終了した時点においては、「読める」項目を選んだ学生は全員であり、「読めない」を選んだ学生はいなかった。全ての学生が問題用紙における読譜みタイムを「読める」ようになったと実感していることがわかる。

テキストについて

- ③ 最初の授業の頃、あなたの読譜み力はいかがでしたか。

- ④ 現在の読譜み力はいかがですか。

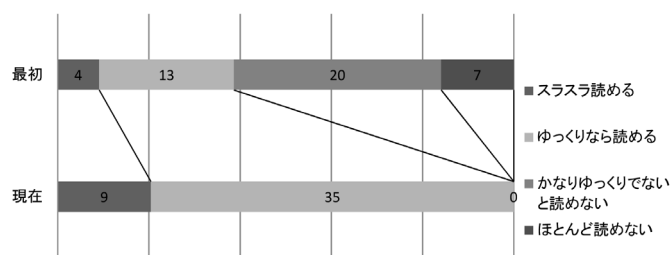


図9-1 読譜み力の変化（ピアノテキストト音記号）

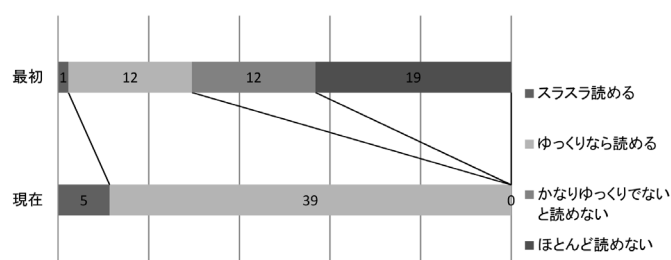


図9-2 読譜み力の変化（ピアノテキストヘ音記号）

テキストに取り組むにあたり、講義初期において「スラスラ読める」「ゆっくりなら読める」を選んだ学生は、ト音記号で計17名、ヘ音記号で13名であった。対して「かなりゆっくりでないと読めない」「ほとんど読めない」を選んだ学生はト音記号27名、ヘ音記号に至っては31名であった。しかし、現在においては「読める」を選んだ学生は全員であり、問題用紙の結果と同様になった。

- ⑤ ④において「読めるようになった」の選択肢を1つでも選んでいる場合は、「読めるようになった」のには、読譜みタイムの効果があると思いますか。

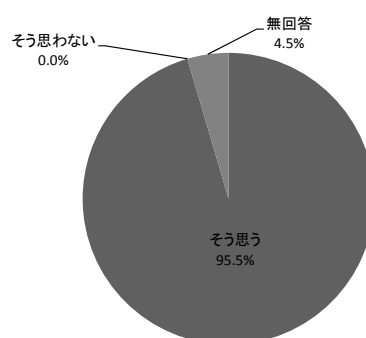


図10 読譜みタイムの効果だと思いませんか？

無回答の学生はいるものの、全てが「そう思う」と答え、「そう思わない」を選んだ者はいなかった。読譜みタイムという活動による読譜み力向上が、学生自身にも認められていることがわかる。

- ⑥ 新しい曲に取り組む時、どうやって曲の雰囲気や流れをつかんでいますか。

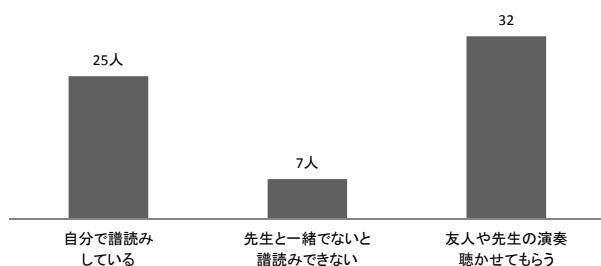


図 11 新しい曲に取り組む時の方法

この設問は複数回答可であり、「友人や先生の演奏を聴かせてもらう」が32名と最も多く、次いで「自分で譜読みしている」が25名、「先生と一緒にないと譜読みできない」が7名であった。ただし、ここには出していないが、データを細かく読み解くと、それらを単独で選んだ者と、併用して譜読みしている者がいることに気付く。

「自分で譜読みをしている」だけを選んだ者は11名、「先生と一緒にないと譜読みできない」だけを選んだ者は1名、「友人や先生の演奏を聴かせてもらう」だけを選んだ者は14名という結果であり、やはりどちらかという、人の演奏を元に雰囲気をつかむ方法を選ぶ傾向にあるようだ。

しかし、人の演奏も聴くけれど自分で譜読みもする、というパターンもいる。「自分で譜読み」＋「友人や先生の演奏を聴く」は12名であった。ただし「先生と一緒にないと譜読みできない」＋「友人や先生の演奏を聴く」つまり“自分で譜読みしない”方法を選んだ学生も4名はいたことは事実である。これは、音の高さは読めるものの、リズムや拍子感までは譜読みタイムでは補えていないことを表しているのではないか。今後の課題である。

⑦ 自分で新しい曲を譜読みすることについて、どう感じていますか。

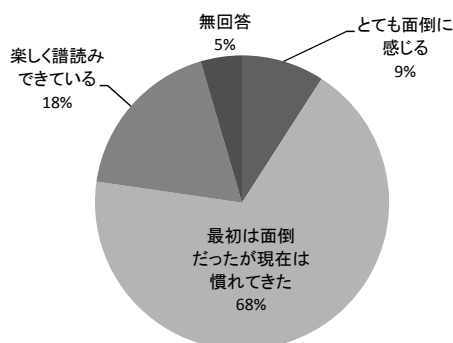


図 12 自分で新しい曲を譜読みすることについて、どう感じていますか。

これは、現在の譜読みに対する感情を訊いた設問である。「とても面倒に感じる」が9%いるものの、「最初は面倒だったが慣れてきた」が68%と圧倒的に多い。さ

らに「楽しく譜読みできている」を選んだ者も18%見られた。譜を読むことに対して少しずつ抵抗感が薄れていることがうかがえる。

⑧ ピアノの授業で譜読みタイムがあることについて、どう感じましたか。

ここでは、ピアノレッスンの経験が一切なかった24名の回答を抽出している。3) ワークシートと同じく、学生をAからXに割り振って紹介する。尚、この割り振りは、アルファベットが同じ学生が回答しているよう対応させている。

学生名	記述内容
学生 A	最初は読めずに嫌だったが、授業を重ねていくうちにテキストの譜読みが少しずつ早くなり、あってよかったと思います。
学生 B	譜読みがしやすくなったと思いました。
学生 C	譜読みは苦手だったので、少し慣れていくことができたので良かったです。
学生 D	楽譜が読みやすくなって良いと思う。
学生 E	最初は全然できなくて、とても苦痛でしたが、だんだんと読めるようになってきてとっても嬉しかったです。
学生 F	自分の身になっていくのですごく良い取組だと思います
学生 G	初心者にもきちんと読めるようになり、何回も繰り返し実施して下さるので、最初の頃よりも読めるようになっているかなと思います。
学生 H	最初は面倒だと思っていたのですが、譜読みを毎週することによって読める数が増えていき意味があるんだと分かりすごいと感じた。
学生 I	欠席
学生 J	楽譜を読むときに今までより少し速く読めるようになったので、あってよかったなと思います。
学生 K	自分は譜読みができなかったのでとても役に立った。
学生 L	最初は全然読めなくて大変だったし、面倒だと思っていたけど、譜読みタイムがあるから楽譜を読めるようになったのですごく良いと思う!!
学生 M	とてもいい取組だと思った。
学生 N	難しかった。
学生 O	できるようになってきたら楽しかった。
学生 P	欠席
学生 Q	自分の成長が見れてうれしく思った。
学生 R	最初は全く譜読みができなくてとても憂うつに感じていましたが、最近は楽しく譜読みすることができています。
学生 S	最初は読めなかった音が譜読みタイムのおかげで読めるようになりました。

学生 T	毎回速さを意識を持って弾くことができました。
学生 U	譜読みタイムで前よりスラスラ読めるようになった。
学生 V	とてもいいと思います。譜読みタイムをすることで早く読まなければいけないと思うのいいと思います。
学生 W	回を重ねるごとに少しずつ読めるようになったので、譜読みタイムをしてよかったと思います。
学生 X	ピアノ弾く前にあるので、普段ドレミと書かないと弾けなかったけど書かなくても弾けるようになった。

以上の結果より分析すると、「あってよかった」「役に立った」「意味があると思えた」など、譜読みタイムの効果を実感している記述をしている者は9名いた。また、「嬉しかった」「できるようになってきたら楽しかった」「成長がみれてうれしく思った」など、肯定的な感情が生じたことを書いた者も3名見られた。

さらに、「楽譜が読みやすくなった」「楽譜を読めるようになった」「ドレミを書かなくても弾けるようになった」など、譜読みタイムの枠を超えて、テキストなど曲を譜読みする上でも効果を実感した者も見られた。

⑨ ピアノの授業に対して、あなたはどのように感じていますか。

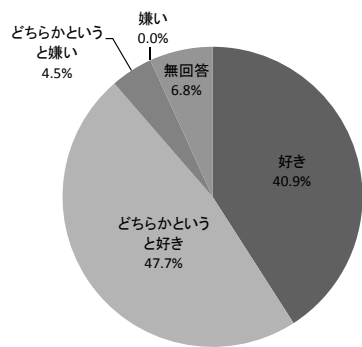


図 13 ピアノの授業が好きですか？

ここでは、レッスン経験の一切なかった24名の結果を抽出している。以下は、それぞれの項目を選んだ者の理由を記述している。

好き：7名

学生 B	テキストを進むスピードは遅いけど、楽しいからです
学生 D	弾けるようになるのが楽しいから。
学生 F	弾けると楽しい。先生が優しく熱心に指導してくださるから。
学生 J	弾けた時うれしいから。

学生 O	できるようになったら楽しいから。
学生 T	ピアノが弾けるようになっていけるから。
学生 V	だんだんと上手になっているからです。

どちらかという好き：12名

学生 A	弾けた時は楽しいけど弾けるまでが難しいから。
学生 C	無回答
学生 E	音楽は嫌いではないから。出来るようになると嬉しいから。
学生 G	無回答
学生 K	できた時とても嬉しい
学生 M	だんだん弾けるようになってきて好きになっている途中です!!
学生 Q	前よりも弾けるようになったから。
学生 R	授業回数を重ねるにつれて、自分のピアノを弾く力が身に付いているような気がするから。
学生 S	弾けた時がとても楽しい。
学生 U	ピアノが弾けるようになったら嬉しいから。
学生 W	だんだんと上手になっているからです。弾けるようになり楽しくなった。
学生 X	無回答

どちらかという嫌い：2名

学生 H	自分でピアノの時間が取れず、なかなか上達するのに時間がかかるから。
学生 L	ピアノが苦手だから

嫌い：0名

無回答：1名

欠席：2名

「好き」の程度に個人差はあるものの、24名の初心者のうち、「できるようになったらうれしい」などと達成感を味わうと「好き」という感情が湧くという学生が19名いた。また6名の学生が「弾けるようになってきた」と、自分の力が着実に付いていることを実感できている。対して「どちらかという嫌い」を選択している者は2名いた。このうち学生Hに関しては、体調不良のため休みがちだったため、練習した結果が次回につながりにくい環境だったことが原因として考えられる。また学生Lに関しては、実際のテキスト進捗は早い方である。練習に励んで結果は出ているものの、自分に厳しく評価していることがわかる。このように学生の感じ方は様々ではあるが、ほとんどの学生はピアノという講義に対して肯定的な感情を持っている。

⑩ ピアノの授業全体について、あなたの考えを聞かせてください。

以下も、レッスン経験のない24名の結果を抽出している。

学生名	記述内容
学生 A	ピアノは難しかったけれど、授業のおかげで少し弾けた気がします。
学生 B	無回答
学生 C	自分だけで練習したり、先生にきいてもらったりアドバイスしていただいたので、少し楽しく弾けることができました。
学生 D	全然弾けなかったのに弾けるようになってすごく楽しいです。
学生 E	周りの友達よりはるかに遅れていて、最初は焦りもあったけど、先生が丁寧に優しく教えて下さったので、少しずつ追いついてきて嬉しかったです。
学生 F	すごく良い授業だと思います。
学生 G	無回答
学生 H	欠席を続けてしまったりして授業での遅れが出てしまい、なかなかスピードを上げて追いつくことの出来ないと感じ、家と1週間ごとの授業があるからこそ伸びるし、進んでいけるんだなと思いました。練習あるのみの授業だなと思ったし、少しの空き時間でもピアノをするべきだなと痛感しました。
学生 I	欠席
学生 J	みんなより全然進んでなくて焦りを感じているので、もう少し頑張りたいです。
学生 K	無回答
学生 L	無回答
学生 M	できなかったことが授業を通してできるようになったことが嬉しかった。実際まだまだ弾けないけど子どもに正確な音を聴かせられるように頑張りたいです。
学生 N	欠席
学生 O	楽しい!!
学生 P	無回答
学生 Q	最初の頃よりピアノに対しての苦手意識がなくなった。
学生 R	とても丁寧に分かりやすく教えてくれるため、自主練習がスムーズにできています。
学生 S	練習してもリズムが分からないので弾けない時がどうしたらいいか分かりませんでした。
学生 T	特にありません。
学生 U	1人1人にあったレッスンだったので、楽しく学ぶことができました。
学生 V	最初はまったく弾くことができなかったけれど、だんだんと弾けるようになったので良かったです。
学生 W	少人数で先生も分かりやすく教えてくれるのでとても良いと思います。
学生 X	無回答

学生の自由記述の中から言葉を拾い出してみると、「楽しい」という記述は4名、「弾けるようになってうれしい」という記述は2名、「よい授業」といった記述は2名、

その他「苦手意識がなくなった」など、肯定的な感情を述べている者が多かった。また、「もう少し頑張りたい」「練習あるのみだと痛感した」など自分への戒めを述べている者も2名いた。

「自主練習がスムーズにできている」という記述がある一方で、「弾けない時がどうしたらいいか分からなかった」など、練習の仕方に対する悩みを述べている者もいた。

7. 考 察

保育者養成校において初心者に対する一般的な指導法である、最初に「読み方」を教え、教えた後は「読める前提」でレッスンを進める方法は、学生に読譜力をつけさせられないだけでなく、曲の難易度はどんどん高くなるにもかかわらず「読めるようにならない」苦痛が、学生をピアノから遠ざけてしまうことも少なくない。

本研究の結果から得られたことの一つに、授業の開始時に行う「譜読みタイム」がピアノレッスンへの頭の切り替えをスイッチし、「楽譜は自分で読むものである」ということを学生に意識づけると共に、教員側も学生がきちんと楽譜に向き合うような指導、例えば、「新しい曲に入る際に一度音高を譜読みさせる」や「楽譜に音名を書き込ませない」などを心掛けるようになったということである。

多くの非常勤講師と共に行うピアノ授業では、できるだけ同じ考え方のもとで授業を行うことが望ましいが、本取組みの中で教員と学生が自然な形で「譜読み」に対する意識を共有できたことは、最初から狙っていたわけではなかったが嬉しい結果であった。このような共通認識のもとでの「譜読みトレーニング」→「テキストの曲の読譜」→「ピアノを弾く」を毎回繰り返すことが、学生の読譜力を向上させ、新しい曲を読譜することに対する苦手感が徐々に解消したと考えられる。

アンケートの中で筆者が一番聞きたかったのは「ピアノ授業が好きですか？」の設問である。これにほとんどの学生が肯定的回答をしたのには正直驚いたが、これは「譜読みタイム」が単独の取組みではなく、チャートやワークシートと共に進めてきたことの結果であろう。

やはり学生にとって「自分で楽譜が読める」という自信を持てるか否かで、ピアノ学習への意欲が大きく異なってくる。その点でも、「譜読みタイム」の効果を学生自身が自覚できるように「読譜力伸長の可視化」を併用し、それについて教員がワークシートでコメントすることで、学生は「楽譜が読めるようになってきたから弾けるようになった」という実感を得て、ピアノ学習へのモチベーションが高まったと考える。

初心者のピアノ学習において、きちんとした「読譜

力」をつけさせることは絶対に避けては通れないことである。しかし、それは大変地道で結果が出るまでには時間がかかり、さまざまな工夫と併用して行う必要がある。ましてや You tube 等の動画サイトでメロディーや拍子、リズムなど曲の雰囲気、時には運指さえも簡単に確認できてしまう現代の学生に対して「読譜力」をつけることの意味をきちんと理解させ指導することの大切さについて、本研究を通し改めて認識することができた。

今後は読譜（音高）以外のピアノ学習のための諸能力の一つ一つについて、ピアノ授業の中でできるトレーニング方法を考え、実践、検証してきたい。

8. おわりに

ピアノ初心者学生と一くくりにしてきたが、実はその中にもいろいろなタイプがある。

幼いころに数年間ピアノレッスン経験がある学生、保育科進学のために入学前に数カ月から１年程度レッスン経験がある学生、ピアノのレッスン経験はないが部活動を通して楽譜と関わったことがある学生、小中高の音楽授業以外は音楽と関わっていない学生等である。

ここでもう一度確認しておきたいのは「ピアノを弾くためには読譜力以外にも多くの諸能力が必要」ということである。

いろいろな音楽的背景をもった学生をよく観察し、レッスンの中での躓きに対して、一人ひとりに違った対処が必要である。例えば、その躓きが「楽譜が読めていないこと」によるものであるのか、「鍵盤位置が把握できていないこと」によるものなのか、それとも「自身の指を目で確認していないと正しい運指ができないこと」によるものなのかを見極め、その場でそれに対処する簡単なトレーニングを順序立てて提供できなくてはならない。それによって、最初は８小節程度の曲を弾くのに何時間もかかっていた学生でも、半年もすればピアノを弾くための「諸能力」の歯車がかみ合うまわ回り始める。この歯車がうまく回り始めるまでの時間は個人差が大きく苦しい時間が長い学生もいる。筆者の担当した男子学生を例に挙げると、前期の時点では「譜読みチャート」はきちんと伸長し、練習も熱心だったが、その成果は「進度」にはなかなか現れなかった。しかし現在、後期のピアノ授業でその効果が現れ始めている。新しい曲が形になるまでの時間が急に短縮し始め、指の動きも前期とはまるで別人のようになめらかになり、学生本人も練習に意欲的で「ピアノが楽しい」と言葉に出すようになった。

ピアノレッスンはまさに一人一人にカスタマイズされたものでなくてはならず、そのための個人レッスンであるべきである。

近年、SNS 等を活用し、教員の演奏の音と運指を学

生がスマートフォンで確認しピアノ授業を進めるような取り組みの研究を目にするようになったが、それで学生に力をつけられるかに疑問を覚える。しかしその取り組みの背景にはピアノ授業に多くの教員を配置できない大学の事情があるのかもしれない。本学では現在のところ、学生一人ずつと向き合いながらレッスンを行えるだけの非常勤講師の配置が認められている。恵まれた授業環境に感謝の意を表したい。

9. 参考文献

1. 野口美乃里・坂井加奈：『ピアノ授業における新しい取り組み―譜読みタイム・ポイント制・ワークシートの導入―』、西九州大学短期大学部紀要、第 41 号、P.51 ～ 60（2011）